



大阪管区气象台 気象防災部 予報課
天気相談所 有本 敏雄

(3) 秋(9月~11月)

台風は熱帯付近の海洋上で発生し、ときに大きな雲の渦を伴って日本付近まで北上し、暴風や大雨等の大きな災害をもたらします(図4)。

2013年に発生した台風数は31個、平年の25.6個に比べ多く発生しています。これまで一番多く発生した年は1967年の39個、少ない年は2010年の14個です。月別発生数の平年値をみると、8月がもっとも多く5.9個、次いで9月の4.8個、7月・10月の3.6個となっており、夏から秋にかけて多くなっていることが分かります(表3)。

台風の日本への接

近数は、平年値は11.4個ですが、2014年は9月24日現在8個となっています。特に2013年10月には、10月だけで1951年の統計開始以来もっとも多い6個が接近しました。これらから、2013年は台風の発生数、接近数ともに平年に比べて多かった年といえます。

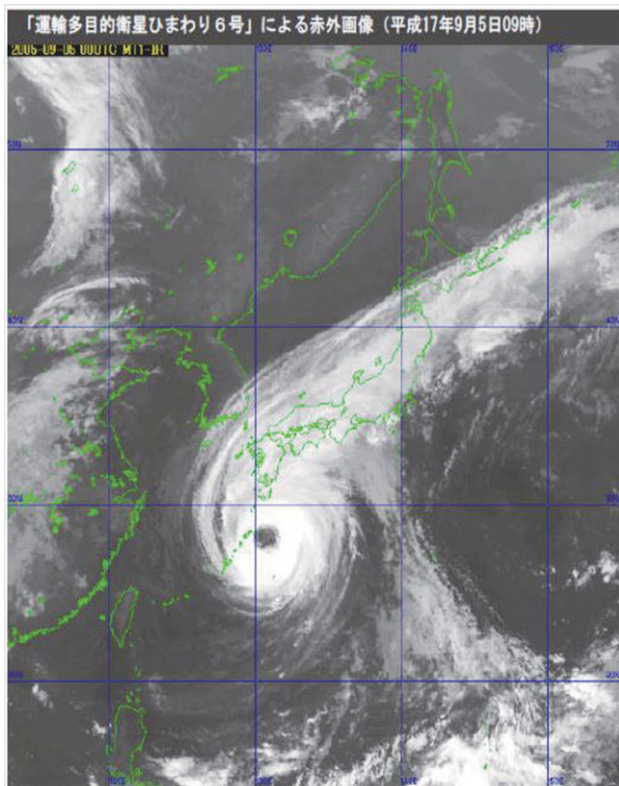


図4:平成17年台風第14号の衛星写真
(2005年9月5日09時)

表3:台風の平年値(算出期間:1981年~2010年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	
接近数				0.2	0.6	0.8	
上陸数					0.0	0.2	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
接近数	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
上陸数	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7

木枯らしは晩秋から初冬にかけて、西高東低の冬型の気圧配置になったときに強まって吹く北よりの季節風のことを言います。気象庁では、「木枯らし1号」を関東地方(気象庁)と近畿地方(大阪管区气象台)のみで発表しています。近畿地方の木枯らし1号は、霜降(10月23日頃)から冬至(12月22日頃)の間に冬型の気圧配置となり、北よりの最大風速が8m/s以上となった初めての日に、気象状況を総合的に判断して発表しています。発表文では最大瞬間風速をお知らせしています。

2013年、近畿地方では11月4日に吹きましたが、本格的な冬に向かって季節が移りゆくことを表す1つの現象ともいえるでしょう。

生物季節観測の代表的なものに、秋はイチヨウ、イロハカエデの観測があります。イチヨウは黄葉と落葉、イロハカエデは紅葉と落葉を観測します。黄葉日・紅葉日とは、標本木(図5)を全体として眺めた時、その葉の色の大部分が黄色・紅色に変わり、緑色がほとんど認められなくなった最初の日を、落葉日とは、葉の約80%が落葉した最初の日をいいます。

A photograph of a large, mature tree with thick, gnarled branches and dense foliage in vibrant autumn colors of red, orange, and yellow. A small white tag is visible on one of the lower branches.

(続＜)



鳥取県出身。防災士。2011年4月から再任用で大阪管区気象台予報課天気相談所技術主任。鳥取地方気象台を振り出しに、西郷測候所、大阪管区気象台、彦根、広島、松山、京都地方気象台等を歴任、2011年3月気象庁定年退職。
趣味は写真、カラオケ、釣りなど。

22